人とつながるボランティア！～新たな活動の提案～

〔北陸・中部〕愛知県立安城高等学校家庭クラブ

学校紹介・家庭クラブ活動紹介

本校は、大正１０年に高等女学校として開校し、来年度には１００周年を迎える伝統ある学校です。家庭クラブでは、「福祉」「食物」「被服」「保育」を柱とし、全学年が地域の方々と交流できるような活動を行っています。

Ⅰ　題目設定の理由

今までの家庭クラブの活動は、全体を４つの活動班（①福祉施設訪問班②食育推進ボランティア班③服育推進ボランティア班④おもちゃ図書館訪問班）に分け、全員がいずれかの活動に参加できるように活動してきました。１年生は全員が福祉施設へ訪問し、２、３年生は②～④の中から選んで活動を行っています。この方法は、全員がボランティア活動に参加することができるため、良い点も多いのですが、活動によってはもっと活動の幅を広げたいと感じている生徒も少なくありませんでした。そこに、安城市が新しく子ども発達支援センターを開設するという話を聞き、今までの家庭クラブ活動で学んできたことを発展させ、子ども発達支援センターを拠点に地域との交流を深めていきたいと考え、このテーマに設定しました。

Ⅱ　実施計画

１　実態調査・課題の把握
２　実践活動
３　中間評価
４　中間評価を踏まえた活動
５　まとめと今後の課題

Ⅲ　実施状況

１　実態調査・課題の把握

(1) それぞれの活動について

①福祉施設訪問活動は、安城市にある障がい者総合支援施設を訪問し、利用者の方と一緒に就労活動のお手伝いを行っています。（写真１）また、利用者の方が製作した小物などを文化祭のときに販売しています。

②食育推進ボランティア活動は「ハッピーキッチン」という名前で活動を行っています。ハッピーキッチンは地産地消をテーマに、食を通して地域の方々と交流し、楽しいひとときを提供することを目指した活動班です。学校で習った知識や技術を活かし、食育講座も行っています。（写真２）

③服育推進ボランティア活動は「ミシェル」という名前で活動を行っています。ミシェルは、学校で学んできた裁縫の技術を生かし、生活をより豊かに、楽しいものにできるような小物製作や講習会を行っています。（写真３）

④「保育」の分野としておもちゃ図書館の消毒・整理の活動を行っています。おもちゃ図書館は、安城市の総合福祉センターの中にある児童センターの一画に設けられています。子ども達が遊んだ後にそれらのおもちゃを１つ１つ丁寧に消毒し、整理整頓を行っています。（写真４）

これらの４つの活動を通して、地域の方との交流や人との関わり方を学び、私たちの生活の幅を広げられるようにしています。しかし、これらの４つの活動の中で、おもちゃ図書館の消毒・整理の活動だけが、人と直接、関わりながら行うボランティア活動ではありません。この活動は、子ども達がおもちゃで遊び終わった後の時間帯に行います。そのため、このボランティア活動に参加している班からは、「子どもと触れあえるボランティア活動がしたい。」という意見を聞くようになりました。そこで、私たち家庭クラブ役員は、子どもと触れあえるボランティア活動はないかと考え、新たな活動班を作りたいと考えました。

また、新しく学校の近くに子ども発達支援センターが開設すると聞きました。この施設は、市内に点在していた発達支援の必要な子ども達のための施設を集約したものになると聞きました。また、おもちゃ図書館でお世話になっている施設もそこに移転すると聞き、何か私たちも開設にあたりお手伝いすることができないだろうかと考えました。

２　実践活動

(1) 子ども発達支援センターとは

私たちは、子ども発達支援センターがどのような施設であるかを知るために訪問してみました。この施設は、発達に心配や遅れのある子どもに関する相談をすることができる発達相談支援と知的に遅れのある子どもが通園できる療育支援事業を集約した施設であることがわかりました。また、この施設は、安城市の旧図書館でもあるため、図書コーナーも併設されており、多くの方が利用できるようになっているそうです。そして、施設の方からは、発達に遅れや心配がある子どもの保護

者が相談の一歩を踏み出せるような場所にしたいというお話を聞き、私たちもそのような場所を作るお手伝いを一緒にしたいと思いました。

(2) 開所式に向けて

施設の方からの依頼の中の１つである「図書コーナーの飾り付け」の製作に取りかかりました。形や大きさ、注意する点を伺い「地域交流図書コーナー」と「おはなしコーナー」という看板を製作しました。看板の設置場所が子ども達のお話広場であるということを聞き、子ども達が喜んでもらえるような動物たちを画用紙で製作し壁面飾りとして用いてもらえるようにしました。(写真５)

また、開所式の際に来場者へのパンフレットの配布などのお手伝いをしてほしいという依頼も受けました。施設の方から多くの親子連れが参加する予定であると伺い、私たちは来場してくれた子ども達や保護者の方々に喜んでもらえるようなプレゼントを製作することにしました。ペンダントやミニバックなどの試作をし、画用紙でお花を模った「うちわ」の製作をすることに決めました。(写真６、７)

３　中間評価

(1)開所式を終えて

「地域交流図書コーナー」の看板と壁面飾りは、施設の方にも喜んで頂くことができました。また、開所式では子ども達のために製作したプレゼントも喜んでもらうことができました。しかし、壁面飾りが通年一緒のものでは、子ども達に喜んでもらえないのではないかと思い、クラブ員と話し合いをした結果、年中行事や月毎で壁面飾りを変え、季節の変化を感じてもらえるようにすることが今後の課題となりました。

(2)新しい活動の立ち上げ

私たちクラブ員は、これらの活動をきっかけに、この活動を１つの活動班として立ち上げてはどうかという話し合いを行いました。

活動内容としては、壁面飾りをクラブ員に製作してもらうことにしました。

そこで、２年生に新しい活動班について説明を行いました。この活動に参加してくれるクラブ員は２０名集まり、新しい活動を十分に行うことができるめどが立ちました。新しい活動班は「ソレイユ」という名前で立ち上げることができましたが、私たちが課題とした「子どもたちと触れあえるボランティア」という問題は残ったままになってしまい、クラブ員と話し合いを継続しました。

４　中間評価を踏まえた活動

（１）月毎のテーマに合わせた壁面飾り

統一感があるようにするために、月毎や年中行事に合わせて行うことにしました。製作した壁面飾りは、図書コーナーの空きスペースなどに展示して頂くことができるようになりました。

(2)読み聞かせのお手伝い

壁面飾りの製作・展示をするうちに、この施設で読み聞かせを行っていることを知りました。学校でその話をクラブ員にしたところ、クラブ員から「読み聞かせのときに何かお土産を渡したら子どもたちが喜んでくれるかもしれないよ」というアイディアが出て、小物入れのお土産を製作することにしました。読み聞かせに来てくれる子ども達は、発達に遅れのある子どもも参加しているということを聞き、お土産を渡す際の注意点などを教えて頂きました。多くの人数では子ども達が驚いてしまうと聞き、４人で読み聞かせに参加させて頂きました。当日はあまり話かけず、子ども達から近づいてくれるのを待っていました。すると、私たちに興味を示し、近づいてきてくれました。読み聞かせが終わり、お土産を渡すときには、大人のそばから離れて、一人で私たちのそばに来て、プレゼントを受け取ってくれました。「ありがとう」と言ってくれる子やお辞儀だけをしてくれる子、また、私たちのそばから離れずに一緒にお土産を渡してくれる子など様々な子ども達とふれあうことができました。この読み聞かせのお土産作りをきっかけに、「子どもたちと触れあえるボランティア活動」の経験をすることができました。(写真８)

５　まとめと今後の課題

今までの家庭クラブの活動も、先輩方が継続して活動してくれたおかげで、私たちもそれぞれの活動班でボランティア活動を行うことができています。今回の子ども発達支援センターが開設した際にも、施設の方から私たちに声をかけて頂いたのも、先輩方が今まで地域の方々と交流し、様々な場所で講習会やイベントの企画を行ってきたからだと思います。こうした成果があるからこそ、今回、私たちが新たな活動班「ソレイユ」を立ち上げることができたと思います。ソレイユの活動は始まったばかりです。他の活動班と同様にソレイユの活動も、子どもたちとの交流を重ねていき、私たちに何ができるのかを考え、ボランティア活動を継続させていきたいと思います。また、子ども達だけではなく、この子ども発達支援センターが掲げる、保護者の方が相談の一歩を踏み出せるような企画をそれぞれの活動班と一緒に考えていき、４つの活動班が連携した取り組みをしていきたいと思います。

（写真１）福祉施設訪問ボランティア

（写真２）食育講座（ハッピーキッチン）

（写真３）服育講座（ミシェル）

（写真４）おもちゃの消毒と整頓

（写真５）おはなしコーナーの看板づくり

（写真６）開所式

（写真７）プレゼント製作

（写真８）読み聞かせ（ソレイユ）